

達第二百二十九號

海軍生徒採用試験委員規程中左ノ通改正ス

大正九年十二月一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

第九條 委員長ハ海軍下士官兵タン志願者ノ屬スル所委員長ニ對シ採用試験ニ關シ必要ナル事務ヲ委託スルコトヲ得

三百十

海軍

2269

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第二百三十號

大正六年陸軍第四百十六號軍令發給陸軍部ニ關シ報告總報手續中左ノ通改正ス

大正九年十二月一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

「下士官」ヲ「下士官兵」ニ改ム

第五條中「現役滿期」ノ次ニ「現役免除」豫備役免除、後備役免除」ヲ加フ

附屬様式ヲ別紙ノ通改ム

三百十一

海軍

2270

様式(用紙美濃紙)

軍事救護法ニ依ル被救護者調

救護開始年月日	救護停止年月日	専出	本籍地	官職氏名	家族人員
大正何年何月何日開始	大正何年何月何日停止	大正何年何月何日 海兵團入團 大正何年何月何日 陸軍	何縣何郡何村何番地 何縣何郡何村何番地 何縣何郡何村何番地 本籍地ニ同シ	志一水何某 徵一機何某	一人 現金給與 金何圓何十錢 二人 現金給與 日額 金何十何錢

記註例

- 一、救護ヲ開始シタル後該救護ヲ停止シ又ハ該停止後再始シタル者ニ在リテハ其ノ開始、停止、再始ノ年月日ヲ相當欄ニ記入スルモノトス
- 二、事由欄ニハ入團、應召、歸休、現役滿期、免役、戰國負傷、公務負傷、戰地罹病、公務罹病、戦死、公死等ノコトヲ簡明ニ記入シ且罹病者ニ在リテハ其ノ病名ヲ記入スルモノトス
- 三、官職氏名欄ニハ免役者ニ在リテハ「元」ノ字ヲ、死亡者ニ在リテハ「故」ノ字ヲ冠記シ兵ニ在リテハ志願兵ト徵兵トノ別ヲ略記スルモノトス
- 四、第三條ニ依リ提出スヘキ異動報告ハ本様式ヲ準用ス但シ本籍地現住所ノ記入ヲ要セズ

陸軍第二百三十一號

海軍通商物品會計規程別添書式第一號甲書式ヲ別紙ノ添附ス

但シ添書式ノ添附ハ現品ノ存スル限リ之ヲ使用スヘシ

大正九年十二月一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

三百十一

海軍

2272

「第一號甲書式」

品 名

(單位稱呼)

大正(何)年度

(何品)物品出納原簿

(備 品)

何 廳

年月日	摘 要	證 憑 番 號	單 價	受	拂	殘	備 考
				數 量	數 量	數 量	

備 考

- 一、此ノ帳簿ハ應費、患者費、教育諸費、在監人費所屬物品出納原簿ニシテ備品、消耗品、材料品、貸與品ニ區分シ各別ニ帳簿ヲ設クヘシ但シ便宜一帳簿内ニ口別ヲ爲シ整理スルコトヲ得
- 二、會計官吏及分任會計官吏交替ノ際ハ其ノ管理期氏名ヲ帳簿ノ初メニ記載スヘシ
- 三、殘ノ欄中更ニ供用ノ欄ヲ設ケ供給先毎ニ區別記帳スルコトヲ得
- 四、單價欄ニハ購買單價ノミ記帳ス

2273

品

(單位稱呼)

年月日	摘要	證憑 番號	單價	受拂		殘 數量	備考
				數量	金額		

8788

2274

達第二百三十二號

統治日誌取扱及記載心得中左ノ通改正ス

大正九年十二月一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

第二十三條中「艦」ヲ「艦」ニ、(狀態)及(統法)ノ項ヲ左ノ如ク改ム

(狀態) 欄ニハ次ノ十二種ニ區分シ凡テ略字ヲ以テ記入スヘシ

艦ノ狀態	略字
輕荷狀態	輕
常備狀態	常
滿載狀態	滿
標準狀態	標
可潛狀態	可
中間狀態	中

三百十三

海軍

(統法)

浸沈航走	愛
半潛航	半
對戰狀態	對
潛航	潛
潛伏	伏
沈座	沈

達第百三十三號

明治四十四年十月達第百十九號中「二圓二十錢」ヲ「二圓五十錢」ニ改ム

大正九年十二月一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

參照 明治四十四年達第百十九號ハ海軍工作場以外ノ工場ニ於テ使役スル職工人夫ノ給與ニ關スル件ナリ

三百十四

海軍

2276

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



卷第二百三十四號

明治四十三年六月達第九十一號海軍院發給式手別紙ノ通改正

別紙ノ海軍教育本部ヲシテ要ムル向ニ配布ニシテ

大正九年十二月三日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

三百十五

海軍



2277

巻第百三十五號

軍備補充費ヲ以テ大正九年度ニ於テ建造ニ當リシハキ特務艦一隻ニ左ノ通命名ス

大正九年十二月七日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

神  
威

三百十六

海  
軍



2278

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第百三十六號

機關日誌、機關月報、機關運轉記錄並機關監督直記録別冊ノ選定ト

但別冊ハ所要ノ向ニ配賦ス

大正九年十二月八日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

附 則

本達ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年達第八十四號ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附

(参照) 大正七年達第八十四號ハ機關日誌、機關月報制定ノ件ナリ

三百十七

海 軍

2279

達第二百三十七號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

大正九年十二月十日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

第百七條第三項中「折メス紐」ヲ「帽日覆、折メス紐」ニ改ム

第百二十六條中「紅生姜類」ノ次ニ「饅頭、田蕪類」ヲ加フ

第廿一表中帽日覆ノ項「一箇年」ヲ「毎年十二月交換ス」ニ改メ備考第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

夏福袴ノ交換期限ハ十二月入團ノ新兵ニ限リ翌年六月ヨリ起算ス

第二十表備考第五號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ調理用トシテ必要アルトキハ三本行十六匁ヲ換給スルコトヲ得

第二十表備考第十八號ヲ左ノ如ク改ム

十八、甲及乙ノ醬油、酢ハ献立ノ都合ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ限リ醬油ニ合五勺、酢

三百十八

海軍

五勺ヲ給スルコトヲ得

第二十表備考第十九號中「熱帯航行」ヲ「熱帯航行又ハ戰鬪運輸中」ニ改メ「熱帯ニ在ル」ヲ削ル

第二十表備考第二十四號中「第十二」ノ下ニ「第三十一」ヲ加フ

第二十表備考第三十二號中「六十匁」ヲ「九十匁」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル艦船ニハ餅九十匁ヲ餅米六十匁ニ換給スルコトヲ得

第二十表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三十三、胡麻油ハ同量額ノ落花生油ニ換給スルコトヲ得

第二號ノ二書式交付證中注意書「折メス紐」ヲ「帽日覆、折メス紐」ニ改ム

正誤

本年達第二百二十八號別冊軍隊教育規則中正誤左ノ通

大正九年十二月十日

海軍省副官

軍隊教育規則正誤

頁(發)	行	欄	誤	正
十八表	十四	教育科目	投、鎗	投鎗。
二十表	四	同	水管	鐵管
同	五	同	水管	鐵管
同	十一	同	機械及諸ハ衍	水壓唧筒
二十表	一	同	水壓機械	空氣壓搾唧筒
同	二	同	空氣壓搾機械	空氣壓搾唧筒
二十二表	四	同	空氣壓搾機械	空氣壓搾唧筒
二十三表	九	同	機械及諸ハ衍	注水
同	十二	同	滿水	推進器
二十四表	一	同	螺旋器	安全鎔解片
二十七表	四	同	安全鎔解片	安全鎔解片

(終)

達第二百三十八號

軍備補充費ヲ以テ大正九年度ニ於テ建造ニ著手スヘキ一等砲臺ニ左ノ通命名スラン

大正九年十二月十一日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

勿 來

三百十九

海 軍

2282

達第二百二十九號

海軍信號誌別冊ノ通改正ス

(清)

明治四十二年達第八号

但シ別冊ハ海軍省軍需局ヲシテ要スル向ヘ之ヲ配賦セシム

大正九年十二月十三日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

三四十一

海軍

2283

達第二百四十號

特務總神威ニ左ノ通信號符字ヲ懸付ス

大正九年十二月十六日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

G O U H

神 威

三四一

海 軍

2284



達第二百四十一號

軍證勿來ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

大正九年十二月十八日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

G Q K U

勿 來

三三二二二

海 軍

2285

達第二百四十二號

陸海軍別等級別表中砲艦一等ノ欄内「海上」ノ次ニ「勿來」ヲ加フ

大正九年十二月二十四日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

達第二百四十三號

陸海軍別等級別表中「砲見」ノ次ニ「神威」ヲ加フ

大正九年十二月二十四日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

三百二十三

海軍

2286



二百四十四號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名及海軍無線電信所名略符號ノ編替添置ノ部  
中鶴見ノ次ニ左ノ通追加ス

大正九年十二月二十五日

海軍大臣 勇壽 加藤友三郎

J  
W  
N

海  
軍  
政

三百二十四

海  
軍  
政

2287

達第二百四十五號

艦船造修試験検査規則中左ノ通改正ス

大正九年十二月二十七日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

第六條 製造ノ命令ヲ受ケタル海軍工廠長ハ一個月以内ニ工事豫定概括表ヲ第一様式

ニ據リ調製シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

爾後起工、進水及引渡豫定期日ヲ變更スルノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ都度更ニ工事

豫定概括表添附ノ上具申スヘシ

第七條 左ノ事項ハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ

一、起工シタルトキ其ノ年月日

二、起工後每一個月ニ一回工事ノ進捗程度及第二號甲様式(潜水艦ニ在リテハ同號乙

様式)ニ依リ搭載重量

三、機關据付ニ著手シタルトキ

三四二十五

海軍

2288

卷第二百四十六號

海軍無線電報取扱規則附表第一編官制官制局各階級職ノ規定海軍官制ノ部中「イ」イイ

洋丸「イ」部除ス

大正九年十二月二十七日 海軍大臣 尾崎 加藤文三郎

三四二六

海軍

2289

達第二百四十七號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名及海軍無線電信所名略符號ノ欄一等砲艦ノ  
部中最上ノ次ニ左ノ通追加ス

大正九年十二月二十八日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

J W E

勿 奈

三四二七七

海軍

大正九年十二月二十八日  
 海軍大臣 男爵 加藤友三郎



2291

達第二百四十八號

横須賀海軍航空隊練習生規則ヲ海軍航空隊練習部規則ニ改メ同則中左ノ通改正ス

大正九年十二月二十八日 海軍大臣 男爵 加藤友三郎

本則中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「當該海軍航空隊所管鎮守府司令長官」ニ「横須賀海軍航空隊司令」ヲ「當該海軍航空隊司令」ニ改ム

第一條中左ノ如ク改ム

練習生ノ種別	兵種	修業期間
一 航空術練習生	兵科 <small>(飛行機搭乗者タルハキ者)</small> <small>(氣球搭乗者タルハキ者)</small>	一箇年
二 普通科航空工術練習生	兵科 <small>(飛行機搭乗者タルハキ者)</small> <small>(氣球搭乗者タルハキ者)</small> <small>機關科 (航空機用機關ノ取扱者タルハキ者)</small>	六箇月
三 高等科航空工術練習生	兵科 <small>(飛行機搭乗者タルハキ者)</small> <small>(氣球搭乗者タルハキ者)</small> <small>機關科 (航空機用機關ノ取扱者タルハキ者)</small>	六箇月

三百二十八

海軍

第二條中「飛行術」ヲ「航空術」ニ、「操縦者」ヲ又ハ氣球搭乗者ニ改メ第三號ニ「但シ氣球搭乗者タルハキ者ハ二十四年未滿トス」ヲ加フ

第二條乃至第四條中第一號ヲ削リ順次番號ヲ繰上テ

第三條中「飛行機體術練習生普通科航空機關術練習生及氣球術」ヲ「航空工術」ニ、「二等兵又ハ進級停年ヲ有スル海軍三等兵」ヲ「二等兵」ニ、「飛行機機體(發動機、氣球)」ヲ「飛行機ノ機體又ハ發動機」ニ改ム

第四條中「飛行機體術練習生及高等科航空機關術」ヲ「航空工術」ニ、「飛行機機體(發動機)」ヲ「飛行機ノ機體又ハ發動機」ニ、「飛行機體術練習生(普通科航空機關術練習生)」ヲ「航空工術練習生」ニ改ム

第六條中「飛行術練習生普通科飛行機體術練習生普通科航空機關術練習生及氣球術」ヲ「航空術練習生及普通科航空工術」ニ、「飛行術」ヲ「航空術」ニ、「飛行機體術練習生普通科航空機關術練習生及氣球術」ヲ「航空工術」ニ改ム

第七條中「飛行機體術練習生及高等科航空機關術」ヲ「航空工術」ニ改ム

第十一條 司令ハ練習生ノ終業期ニ於テ卒業成績表ニ意見ヲ附シ其ノ二通ヲ當該海軍航空隊所管鎮守府司令長官ニ進達スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ卒業成績表一通ヲ海軍教育本部長ニ移送スヘシ

練習生ノ學業考課表卒業成績表ハ練習生在籍鎮守府別ニ依リ之ヲ當該鎮守府司令長官ニ送付スヘシ

第十二條 練習生卒業シタルトキハ卒業成績順序ヲ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ本人ノ

履歴表ニ記入シ其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘシ但シ在籍鎮守府司令長官ノ

請求アルトキハ其ノ指定ノ艦船部隊其ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

別表第一中「海軍考課表規則ニ準シ記入スヘシ」ヲ「海軍考課表規則ニ準シ記入シ飛行機搭乗者無搭乗者ハ各別紙トスヘシ」ニ、横

須賀海軍航空隊飛行術」ヲ「海軍航空隊航空術」ニ改ム

別表第二中「海軍考課表規則ニ準シ記入スヘシ」ヲ「海軍考課表規則ニ準シ記入シ機體發動機取扱者ハ各別紙トスヘシ」ニ、横

須賀海軍航空隊普通科航空機關術」ヲ「海軍航空隊普通科航空工術」ニ改ム

別表第三中「横須賀海軍航空隊普通科飛行機體術」ヲ「海軍航空隊普通科航空工術」

三百二十九

海軍

ニ、航空術」ヲ「航空工術」ニ改ム

附 則

従前ノ規則中飛行術練習生、飛行機體術練習生又ハ航空機關術練習生ニ關スル規定ハ航空術練習生、航空工術練習生ニ關スル規定トス



海軍省  
則登

達第二百四十九號

現ニ左記ノ欄ノ修業證書ヲ有スル下士官兵ノ下欄ノ練習生教程ヲ卒業シタル者ト看做ス  
大正九年十二月二十八日 海軍大臣 男爵 加藤友三郎

飛行術	航空術練習生
氣球術	
普通科飛行機體術	普通科航空工術練習生
普通科航空機關術	

達第二百五十號

大正二年達第七十一號中左ノ通改正ス  
大正九年十二月二十八日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

三四三十

海

軍

- 九ノ二 航空術練習生教程ヲ卒業シタル者 四箇年(大正九年十二月三十一日以前ニ練習生ヲ命セラレタル者ヲ除ク)
- 九ノ三 高等科航空工術練習生教程ヲ卒業シタル者 三箇年
- 九ノ四 普通科航空工術練習生教程ヲ卒業シタル者 四箇年(大正九年十二月三十一日以前ニ練習生ヲ命セラレタル者ヲ除ク)
- 十 特修科軍樂術練習生教程ヲ卒業シタル者 四箇年(大正七年六月以前ニ卒業シタル者ノ三箇年)

2293